

環境自主行動計画

2015 年 1 月

株式会社熊本放送

熊本放送（RKK）基本理念

熊本放送（RKK）は、「森の都」「水の都」とも呼ばれる自然豊かな農業県にあります。県土の約7割が森林に占められ、その森林は4つの一級河川や1,000か所以上の湧水地をもたらしています。そして、日射量も全国的に高く森林などを豊かに育んでいます。この「森」「水」「太陽」によってもたらされる「自然の循環」は、豊かな風土を造ってくれます。しかし、近年の地球環境の変化は、温暖化による異常気象など、世界規模の危機に直面しています。また、原子力発電所の稼働停止に伴う再生可能エネルギーによる発電など、この危機に対する政策や議論も進められています。

私たちメディア企業も社会的責任として、放送や活動を通じて地球環境の保護、温暖化防止への意識の普及・啓発に努めると共に、自助努力として環境負荷低減事業に取り組むなど、長期的視点で環境保全に貢献することを目指し、恵まれた熊本の風土を守り残すために努力します。

基本方針

- 1) 私たちは、放送番組や事業活動などを通し様々な環境問題に対する意識の普及・啓発に努めます。
- 2) 私たちは、自らの企業活動により環境システムの改善と維持に努めます。
 - ・ 消費電力をはじめとした、消費エネルギーの削減に努力します。
 - ・ 再生紙の利用及びペーパーレスの推進に努めます。
 - ・ 太陽光発電事業を通して、再生可能エネルギーの推進に努めます。
- 3) 環境保全に関する法令や自主行動計画を遵守し、環境に配慮した視点を持ちその責任を遂行します。
- 4) この環境方針とこの方針に基づく各取り組みについて、当社ホームページなどで情報開示します。

ECO活動への取り組み

環境負荷低減事業

■ 太陽光発電事業

- ・「RKKソーラーパーク・荒尾」(平成 25 年 10 月より稼働)
- ・環境負荷低減事業の一環として、また遊休地の有効活用手段として、ラジオ送信所(荒尾市)の敷地 14,000 m²の土地を利用した、太陽光発電事業を開始。(20 年間運用予定)
- ・年間発電量：950MWh (最大発電電力：890kW)
一般家庭に換算すると、約 264 世帯分(1 世帯あたり 3,600kWh として算出)。
- ・太陽光発電で得られた電力は九州電力株式会社に売電。
- ・この取り組みを通し、子供たちへ太陽光発電の必要性、安全性を分かりやすく提示し、再生可能エネルギーへの理解を深めてもらう。
- ・本館見学者スペースに於いて、太陽光発電の仕組みや日ごとの発電量などを専用画面で表示。日ごと・月ごと・年間での発電量を数値化、グラフ化するなど、社の取り組みを分かりやすく伝えている。同時に、アンテナに設置したカメラで、ソーラー発電所のライブ映像を紹介。ソーラー発電の様子を、視覚的にも伝える工夫をしている。
- ・この事業により削減される CO₂量は、693.4 t-CO₂となる。
この CO₂削減量は、平成 26 年 1 月～12 月の年間発電量 1,123,770 kWh に九州電力(株)平成 25 年度排出係数 0.000617t-CO₂/kWh を乗じたものです。

社内に於ける環境負荷低減活動

■ 森林資源による削減活動

- ・自社所有の山林の育成、整備と伐採を森林組合と定期的に実施しており、今後も熊本県林業公社等と連携を図りながら、森林資源の育成と水資源の保全活動に向け山林の養生に努めていく。
- ・所有森林の二酸化炭素吸収量の算出を実施
＜気候変動に関する政府間パネル(IPCC)に準拠した算式により 2009 年度の実態から独自算出＞

熊本放送の所有する山林の二酸化炭素吸収量は、2,999 t-CO₂/年と算出。

熊本放送の企業活動による二酸化炭素排出量は、1,546 t-CO₂/年と算出。

■ 電力量の使用量削減

- ・ LED照明を導入。(平成 24 年 6 月～)
- ・ 毎月の電気・ガス使用量と金額をメールで周知。節電・節ガス効果により使用量は確実に減少傾向にある。
- ・ 消灯時間設定(昼休み 12 時から 13 時：夜 22 時消灯)
- ・ 土曜・日曜を含め帰宅時に、照明やパソコンなど身の回りにある電気製品の電源スイッチを切り、無駄をなくす節電を実施。
- ・ パソコンについては、90 分以上使用しない場合の電源 OFF。
また、休憩時間、会議など離席する場合はアプリケーションを閉じ、スリープモードを使用。
- ・ 各部署のテレビも昼休み・帰宅時には電源 OFF。
夜間巡回の際に、消し忘れをチェックし、該当部署には注意を促す。
- ・ クールビズの実施 5 月 1 日～10 月 31 日
夏季空調室温 28 度。及び空調時間設定 9 時から 21 時まで。
自動販売機のディスプレイ箇所の消灯及びタイマー運転。
- ・ ウォームビズの実施 11 月 1 日～3 月 31 日
冬季空調室温 22 度。及び空調時間設定 9 時から 21 時まで。
- ・ エレベーター運行の制限。
原則として 1 台運行。会議などで必要な場合、申請により 2 台運行。

■ 燃料その他の資源使用量の削減

- ・ 冬季空調は室温 22 度設定。(ウォームビズの実施)
空調用の温水の温度を下げるによりガス使用量削減。
- ・ インクカートリッジのリサイクルなど廃棄物の再資源化。
- ・ コピー用紙の削減呼びかけ・不要コピー用紙の裏面活用・両面コピーの励行。
- ・ 機密文書のリサイクルとして、H25 年 11 月より溶解処理を採用。
この方式で古紙のみにとどまらず、廃プラスチックや金属、溶解に使用した水までリサイクルできる。個人情報の漏洩防止と同時に、環境負荷軽減・シュレッダー不使用による節電など多面的な効果を生んでいる。

C O₂排出削減の目標設定について

熊本放送はメディア企業の社会的責任として、地球環境保護と温暖化防止の取り組みを実施しています。

C O₂排出量の削減目標については、**5年間で5%削減する**（平成25年度～平成29年度）ことを目標に取り組みを進めます。平成24年度（2012年度）の排出量を基準年度とします。

平成24年度のC O₂排出量 1,726.7 t-C O₂

目標年度	C O ₂ 排出量 (t-C O ₂)	削減率 (%)
平成25年度	1,727.5	+0.05
平成26年度		
平成27年度		
平成28年度		
平成29年度		

<C O₂排出量の計算式>

平成24年度

電気使用によるC O₂排出量 (t-C O₂)

$$\begin{aligned}
 &= \text{電気使用量 (kWh)} \times \text{九州電力のC O}_2\text{排出係数 (0.000599 t -C O}_2\text{/ kWh)} \\
 &= 2,325,720 \text{ kWh} \times 0.000599 \text{ t -C O}_2\text{/ kWh} \\
 &= 1,393.1 \text{ t-C O}_2
 \end{aligned}$$

ガス使用によるC O₂排出量 (t-C O₂)

$$\begin{aligned}
 &= \text{ガス使用量 (m}^3\text{)} \times \text{西部ガスのC O}_2\text{排出係数 (0.00227 t -C O}_2\text{/ m}^3\text{)} \\
 &= 146,963 \text{ m}^3 \times 0.00227 \text{ t -C O}_2\text{/ m}^3 \\
 &= 333.6 \text{ t-C O}_2
 \end{aligned}$$

電気とガス使用によるC O₂排出量 (t-C O₂) の合計

$$\begin{aligned}
 &= 1,393.1 \text{ t-C O}_2 + 333.6 \text{ t-C O}_2 \\
 &= \mathbf{1,726.7 \text{ t-C O}_2}
 \end{aligned}$$

■テレビ番組

「世界一の九州が始まる！」

阿蘇を愛したイタリアンシェフ

日本の草原の4割が阿蘇に集中しており、草原を核に農業と生活が存在している。草原を守り、草原が育んだ農業文化を広く伝え残していきたいと、世界農業遺産への登録を提唱したシェフ取材。地元や周囲を巻き込んだ熱意は、2013年5月の認定に繋がった。自然と共生してきた阿蘇の農業文化の素晴らしさを伝える。

2013年12月22日放送

アサリパワーで宝の海を！！

「アサリの浄化パワーで干潟を救いたい。」養殖技術の開発に携わってきた男性が取り組む故郷の海の浄化。その技術の根本は、漁業収益を確保しつつ、自然環境へ負荷をかけない養殖法だ。陸上養殖技術を産業として展開できるレベルまで確立した、男性の奮闘を追う。

2014年2月23日放送

島の宝は“野の草”

天草の地名は、古来より多くの人々の疫病を救った薬草を「天の草」と呼んだことに由来するとも言われている。自然の恵みである薬草を栽培・製品化して、雇用の場を生み出し、地域の生活向上に挑戦する元高校教師の活動を追う。

2014年4月20日放送

“浮かない泡”がエビを育てる！

“浮かない泡”を利用した養殖方法の研究を紹介。この研究は、環境負荷を少なくして、生産性の高い養殖漁業を実現する可能性を秘めている。研究は、いよいよ実用化に向けた最終段階。今年からタイでエビ養殖の生産性を向上させる実験も始めた。世界の養殖業を変える！その夢を追い続ける人物の取り組みを追う。

2014年6月8日放送

魔法のソーラーパネルで 世界に電気を！

開発競争が激化している太陽電池パネル。熊本の会社が開発したのは、塩害に強いプラスチック製の軽くて錆びない画期的なパネルだ。国際協力機構（JICA）のフィリピンでの事業にも採択され、フィリピンの国民魚「ミルクフィッシュ」大量死の防止を目指し、漁業者の脱貧困に貢献する。

太陽光を活用して電源がない所に電気を送る研究と、その挑戦取材する。

2014年9月7日放送

「エコ×22」

地球温暖化や化石エネルギーの枯渇、また大気汚染など私たちを取り巻く環境は年毎に深刻になっている。そういった中、エコ活動に取り組んでいる県内の団体や個人を22回シリーズで紹介する番組。

第2・第4日曜日放送（16：54～17：00）

例）地中熱で冷暖房・小水力発電・石油に代えて木質ペレット・ソーラー蓄電池・不用品のリユース活動など

2014年2月9日～12月21日放送

「電気自動車が切り拓く未来～熊本からの挑戦」

昨年秋まで開催してきた「EVフェスティバル九州 in 熊本」。イベントの中心的役割を担ってきた「日本EVクラブ熊本支部」の10年にわたる活動や、「エコ電カーレース」の静かで熱い戦い・県内大学の先鋭的研究などを取材。

省エネルギー社会の象徴とも言えるエコカーが拓く未来社会を展望する。

2014年12月21日

■ラジオ番組

RKK ラジオ環境キャンペーン企画

「RKKハーブ・プロジェクト」 不定期

「できることから、ちょっとずつ。」を合言葉に、省エネ・創エネを通じ地域環境保全のサポートを行い、我々の子孫に自慢できる『地球に優しい環境地域づくり』に貢献いたしたいという企業に呼びかける企画を続行中。

■イベント

「みどりと遊ぼう！立田山グリーンウォーク」

毎年秋開催

熊本市内にある自然林・立田山を親子で歩き自然の恵みに触れ、自然の大切さを伝える体感型イベント。

当日、「緑の募金」活動を実施、集まった募金は全て熊本県緑化推進委員会を通じて、緑の保全活動に生かしてもらっている。

「EVフェスティバル九州 in 熊本」

2013年まで毎年秋開催

単3電池10本で走らせる手づくり電気自動車のレース。

このイベントを通して次世代を担う高校生・大学生の「ものづくり、夢作り、人づくり」の楽しさ、エネルギーの大切さを感じてもらおうと共に、地球環境を守るため電気自動車（EV）の普及・啓発を目指すイベント。

テレビ番組：イベントの様態とEVをテーマにした30分番組。

「くまもとECOメッセ エコライフ&プロダクツ展」 毎年秋開催

「いかにして未来に地球を残すのか」をライフスタイルの観点から楽しく学ぶイベント。生活者に環境問題や環境配慮型製品、サービスエネルギーなどの情報提供しようという企画。体験コーナーなどあり親子で楽しめるイベント。

「エコ クリスマスツリー」 毎年12月実施

本社玄関前にペットボトルとLEDライトで飾った高さ8メートルのクリスマスツリーを設置。クリスマスメッセージ投影などのイベントを通じ、楽しみながらエコへの意識を高めるイベントである。

【この件に関するお問い合わせ先】

〒860-8611

熊本市中央区山崎町30

株式会社 熊本放送

エコ委員会 事務局

Tel 096 - 328 - 5543